

さわやかトカラ情報

一隅を照らす十島の教育

発行元 十島村教育委員会

〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 099-227-9771

E-mail toshima-ky@tokara.jp

九月～心の連鎖

十島村教育長 原口 英典

PTA新聞の九月号の「星座」欄に、すてきな記事を見つけ、胸に刻ませていただいた。それは、一つには「ぎんさん」の娘四姉妹が、インタビューに答えた内容を取り上げたもの。いま一つは、「象の背中」(秋元康著)の一節を引用したもの。記事を書かれた方の深い人間観や感性、生き方の軸足の置き所に共感することであった。

具体的には、「不便だから工夫する幸せがあった。買いためできん頃は、むしろおいしいものが食べられた。」というインタビューへの答の意味するところに言及したものである。また、「どんなに帰りが遅くても、あなたは子どもたちの部屋へ行き、頬にキスしていたことを私は知っています。・・・いつも私たちのことを考えていてくれるあなたは、最高の父親であり、最高の夫です。」と、まさに命の灯が消えようとしている夫に、妻が読み上げる夫あての最後の手紙。日常の凡事の継続性が持つ価値と凡事だからこそその困難さを読み解いたものである。

「星座」欄に、それぞれ記事を書かれた方の訴えたかった心根は、今の世情だからこそ、また、忘れかけられている価値観であるからこそ、輝きをもって迫ってくる。

ところで、不便とは、自由の利かないことと辞書にある。その「自由」という文字をよくよく見るに、自(みずか)らを由(よし)とすることと読み、「由」とは、原因とか理由という意味も持つ。つまり、自由とは、自分の思いどおりにできることという意味もあるが、本質的に、他(人)のせいにはしないことという意味にたどり着く。

とすると、不便とは他のせいにはできる可能性を秘めていると言える。他(人)のせいにはできる一面を持つ不便さは、不便でなければ、そこに一工夫も、二工夫も持ち込むことなどしないであろうが、不便だからこそ、工夫という味付けができるというわけだ。このことは、自分の責任でできるということで、「幸いなこと」なのだとして教えてくれる。

私たち十島の島々にあって、学校教育であれ、また、社会教育であれ、多様な工夫や見落としがちな価値の復権ができる状況下で働けるということは、そこでの暮らしそのものが、実は、幸せな面持ちをもたらしてくれるということにもつながりそうである。そのことは、「置かれた場所で咲く」ことにも通じているように思われる。

【 十島ファミリー劇場開催 】

中之島でのファミリー劇場は、9月22日(土)に新舞踊彩峰流家元深川真里さんによる一人漫談ショーが公演されました。

早変わり衣装での日本舞踊に始まり、漫談トークで会場の皆さんは大喜び、拍手喝采、大変盛り上がりしました。



また、同伴の娘さんの歌謡と踊りも華を添えました。開催にあたり地域の方々や先生方に多大な御協力をいただき、感謝しています。

【 十島村定例教育委員会開催 】

村定例教育委員会は、9月24日(月)に役場4階会議室で開催されました。教育長の教育委員会行政報告に引き続き、平成24年度6月補正予算・十島村高校生修学支援金要綱の制定・十島村「海外ホームステイ事業」補助交付金要綱の制定について等審議され、提案された案件について全て承認されました。

【 村内小中学校運動会<体育大会>盛会裏に！ 】

三大学校行事の一つである運動会<体育大会>は、9月22日(土)に口之島、諏訪之瀬島、平島、9月23日(日)に悪石島、宝島、9月27日(木)に小宝島で開催されました。一部雨天のため、会場を体育館で実施したり、1日延期されたりしましたが、地域ぐるみで、各校伝統ある演技や競技が展開されました。

今後の予定：10月6日(土)中之島

【 入賞おめでとございます 】

第23回KKB硬筆コンクール

- 金賞・森 清香(小宝島小2年) ・森 文音(小宝島小5年)
- 銀賞・東 真優(小宝島小4年)
- 銅賞・福徳凌牙(平島小2年) ・福徳吏悠空(平島小3年)
- ・福徳羽音(平島小4年) ・畑野陸斗(平島小6年)

- ・福園真里奈(平島小6年) ・畑野隆人(平島中2年)
- ・日高悠斗(平島中2年)
- ・岩下孟司(小宝島小2年) ・東 桃香(小宝島小2年)
- ・清水宏太郎(小宝島小4年)

第49回南日本硬筆展

南日本芸術学園賞・森 清香(小宝島小2年)

推薦賞・永吉美遥(口之島小2年) ・山元悠希(口之島小6年) ・平泉開翔(中之島小5年)

優秀賞・平泉翔大(中之島小3年) ・森 文音(小宝島小5年) 金賞・永吉美悠(口之島小4年) ・永田征也(口之島中2年) ・小林ひかる(中之島小3年) ・江田尚多郎(中之島小5年) ・小林良介(中之島中1年) ・岩下孟司(小宝島小2年) ・東 真優(小宝島小4年)

銀賞・高本宇宙(口之島小1年) ・高本海人(口之島小5年) ・日高裕星(口之島中1年) ・大隈翔太(口之島中3年) ・羽生偉琉(中之島小2年) ・羽生伊織(中之島小4年) ・東 桃香(小宝島小2年) ・清水宏太郎(小宝島小4年) ・早川千徳子(小宝島中2年)

銅賞・山元柊星(口之島小3年)

絆 シリーズ 山海留学生として学ぶ

小宝島の力 (その1)

刈谷 飛秋 現在高校1年生(薩摩川内市)

僕が山海留学生として小宝島に行ったのは、その頃通っていた中学校になかなか行くことができなかったから。授業もまともに受けられず悩んでいた。

しかし、自分でも行きやすくどこか安心して授業を受けられるところはないだろうか、と両親にも協力してもらい、行き場を探していた。そのとき、十島村山海留学制度があることを知った。

2年間、島で頑張ってみようと思い、行くことに決めた。両親も「滅多にない経験だから行っておいで」と僕の背中を押してくれた。中学2年生の1学期の途中から小宝島分校に転校した。学校の友達、先生、島民の方々が温かく迎えてくれた。いよいよ小宝島で生活する2年間が始まった。

最初は両親から離れて生活することや島での学校生活にもなかなか慣れず大変だった。しかし、島では趣味である魚釣りができることや、新しくできた友達と楽しく話ができることが自分の支えになった。また、両親とは電話でときどき話をし、励ましの言葉をもらった。

島での最初の行事は、小宝島恒例の一輪車大会であった。学校生活1日目から、先生方や友達に教わりながら一輪車の練習を始めた。最初は初体験でもあり、一輪車に乗るだけでもままならなかった。でも、ねばり強さでなんとか乗ることができるようになった。それから地道に練習を繰り返すと距離もできるようになった。約20日間で完全に走れるようになり、一輪車大会では島民の方々が里親さんにも応援されながら島一周を完走することができた。

川内の地元に行ったら、できないままで済んでいたと思う。挑戦することもなかった気がする。

これが自信へとつながっていき、他の行事にも積極的に取り組むことができるようになった。特に、2学期の体育大会のときも頑張り、楽しむこともできた。

(10月号に続く)

【 子どもたちの作品 】 南日本新聞「若い目」 <H24.8.31>より

追い込み漁を経験して

口之島小5年 高本 海人

ぼくは今年4月に熊本県から口之島小・中学校に転校してきました。小さな島だったので、子どもの人数は、ぼくも合わせて9人と少ない学校です。でも、最初からみんなが親しくしてくれたので、ほっとしました。

7月には、臨海学校がありました。海の前にテントをはり、みんなで1泊2日を過ごす行事です。ぼくはキャンプをするのが初めてだったので、少し不安でした。でも、テントの中はとてはずすしくて、気持ちよく過ごしました。

そして、2日目の昼からは「追い込み漁」という口之島伝統の漁に挑戦しました。ぼくたちが泳ぎながら魚を追い込んでサンゴの間にはったあみでつかまえる漁です。

去年はあまりとれなかったそうなのですが、今回はブダイやハリセンボンなど多くの魚が一度の漁でとれました。追い込み漁を経験して、魚の動きが速すぎて追い込むのが難しいことを学びました。泳ぐ練習をもっとして、来年はたくさん魚を追い込もうと思います。

十島村の小・中学校からのメッセージ 宝島小・中学校

教諭 二宮 浩一

教職2年目で、全校生徒約800名の大規模校から全校児童生徒4名の極小規模校へ赴任し、2年半が経過しました。小中併設校という特性から初めて向き合う仕事も多く、新鮮かつ刺激的な出会いと経験の連続でした。十島ならではの教職の魅力を紹介する機会をいただきましたので簡潔に述べたいと思います。

まず、十島で仕事に向き合うと小学校と中学校、児童と生徒の違いがよくわかります。小学校でどのように児童が育てられ、中学校に入学してくるかを具体的に知ることは大変意味のあることに思えます。逆も然り。この経験は今後の教職生活に大いにプラスになるでしょう。

また、いわゆる僻地ゆえ、設備の不足や環境の不備は否めないところもありますが、創意工夫で補う精神が芽生えます。さらに、簡単に必要なモノが手に入らない状況もあるので「モノを大切にすること」も意識します。そして、島の生活では、忙しい中にも「ひとり」になれる時間を持つことができるので、自分がやりたいことに没頭することもできます。

教職員仲間である「あなた」へのメッセージ

小さな学校には、小さな学校だからこそできる児童生徒の取組があります。それを世に認めさせ、児童生徒に自信を持たせることは何より大切かと思えます。ぜひ先生の持ち味や特技を生かし、十島の児童生徒を引き立ててあげてください。

【 全国労働衛生週間 】

10月1日(月)～10月7日(日)

スローガン「心と体の健康チェック みんなで進める健康管理」

【 セブンアイランド図書購入希望を募ります 】

10月22日(月)までに学校に申込んでください。